

平成27年度全国獣医師会事務・事業推進会議の開催

- I 日時：平成27年7月10日(金) 13:00～17:00
- II 場所：明治記念館2階「鳳凰」
- III 出席者：
- 1 全国54都道府県市獣医師会
担当役員・事務局職員
 - 2 日本獣医師会
会長：藏内勇夫
副会長：酒井健夫
専務理事：境政人
顧問：北村直人
事務局職員：11名
- IV 説明・報告事項
- 1 日本獣医師会説明事項
 - (1) 平成27年度事業計画
 - (2) 獣医学術学会事業関係
 - ア 学会組織と事業運営の状況
 - イ 獣医学術学会年次大会・同地区学会の開催
 - (3) 獣医学術講習会研修会事業
 - (4) 日本獣医師会獣医師生涯研修事業
 - (5) 獣医事対策等普及啓発事業
 - ア 2015動物感謝デー in JAPAN
 - イ 日本獣医師会動物愛護週間関連行事褒賞事業
 - (6) 動物福祉適正管理施策支援事業
 - ア 動物適正管理個体識別登録等普及推進事業
 - (7) 東日本大震災義援金に係わる対応
 - ア ゲート型リーダーの寄贈
 - (8) 部会委員会等運営事業
 - (9) 日本獣医師会獣医師福祉共済事業
 - ア 生命共済事業
 - イ 獣医師賠償共済事業
 - 2 決議要望事項等
 - (1) 平成26年度地区大会決議・要望事項等に対する対応
 - (2) 地方獣医師会照会事項
 - (3) 地方獣医師会との連携強化
 - 3 日本獣医師政治連盟活動報告
 - 4 研修会「マイナンバー制度対応」

V 概要

【開 会】

日本獣医師会事務局の司会で、次のとおり会議が進められた。

【開会の挨拶】

藏内会長から以下の挨拶が行われた。

先月、日本獣医師会の会長に再任をさせていただきまして、与えられた2年間の任期を精一杯、皆さまとともに頑張っていく所存でございますので、よろしくお願ひ申し上げます。また、近藤信雄副会長、矢ヶ崎忠夫専務理事はじめ、今回役員を退任された先生方、また、地方獣医師会の事務局の関係者の皆さま方には、日本獣医師会が目指すところを汲んでいただき共に行動をとっていただいたおかげで、この2年間に私たちが標榜した目的へとかなり近づくことができたのではないかと、心から感謝しているところです。本日は、酒井副会長と、私と同じ福岡県出身の新任の境専務理事にも出席いただき、そして、無理にお願いをして引き続き顧問にご就任いただいた北村直人日本獣医師政治連盟委員長にもご出席いただきしております。また、副会長には引き続き秋田県獣医師会の砂原和文会長と、新たに東京都獣医師会の村中志朗会長に就任いただきました。全員で力を合わせ、地方獣医師会の皆さまのご意見をよく伺いながら本会の業務を進めていきたいと思っております。

私は2年前に就任いたしました際、「日本獣医師会は地方獣医師会のためにある」と、そのような信念で日本獣医師会を運営していきたいと考えました。つまり、日本獣医師会と地方獣医師会は表裏一体であり、同じ目的意識と価値観を持って共に行動を起こすことが重要であり、この対応がなければ本会が抱えている永年の大きな課題を解決できず、そしてまたスピード感を持ってすぐに対応しなければならぬ問題に着手できないと考え、対応いただくことをお願いしてまいりました。特に、地方公務員獣医師の処遇の問題、あるいは獣医学教育、新たに大学を設置しようという議論がまかり通るような状況を何とか阻止しなければならない訳であります。また、人と動物の共通感染症の脅威の中でわれわれは直接的には動物の健康を守り、間接的に人間の健康を守っている訳であります。食の安全を担保し、環境を保全し、人間の社会を守っている訳でありますから、人間の健康を直接守っている医師会との連携を深めるべきであると考えまして、日本獣医師会との学術の連携に関する協定書を締結いたしました。

これら3つの大きな課題がほぼ順調に解決の方向へと推移できましたのは、地方獣医師会のご協力のおかげでございました。地方獣医師会なくして、これらの問題解決に向けた推進はできなかったと思っております。これ

からの2年間におきましても、ぜひとも日本獣医師会と地方獣医師会が表裏一体となり、さらに物事の解決に向けて推進をしていきたいと思っております。特に、医師会との連携につきましても、おかげさまでほぼ1年間のうちに23の地方獣医師会において地方医師会と協定書を締結していただきました。私は47の都道府県においてぜひともこのネットワークを作り上げたい、これを2期目の任期における一つの大きな目標としたいと考えているところであります。日本医師会の横倉会長ともども、全国に人と動物の健康を守るネットワークを作り、日本国家のため、国民のために頑張っていこうという固い契りを結んでおりますので、いまだ提携が進んでいない地方獣医師会におかれては、どこに問題があるのか、日本獣医師会からどのような支援が必要かおっしゃっていただき、このネットワークの作成にご協力いただきたいと考えております。

医師会側からはありがたいことに、「これまで獣医師会は人間の健康に大きく貢献されてきた、特に狂犬病の予防体制等に対してご尽力いただいたことを心から感謝します」と、このような言葉を日本医師会の横倉会長は至る所でおっしゃっております。私どもは、日本医師会からいただいたこの言葉に応えていかなければならない大きな役割と責務があると考えております。

本日の会議では平成27年度の活動計画について皆さま方にご説明とご報告をいたしますが、引き続きスピード感を持って対処していくために、地方獣医師会と情報の共有化を図り、適切な人材、必要な人員、費用対効果を十二分に考えて運営に当たりたいと考えております。これまでの2年間には3つの特別委員会を設置させていただきましたが、おのおの特別委員会においてそれぞれ目的を達成できましたことから、今期はさらにスクラップ&ビルドをいたしまして、人と動物の共通感染症に関する委員会と、そしていよいよ狂犬病予防体制の充実に向けたマイクロチップを合法化へと進めるための委員会の2つの特別委員会を設置していきたいと考えているところです。

先般、われわれは日本医師会とOne World, One Healthの理念のもとに学術協定を結び、獣医学術学会年次大会においてシンポジウムを開催したり、さらに東京の日比谷公会堂で医師会との狂犬病のシンポジウムを行いました。こういった動きが、世界医師会、世界獣医学協会に取り上げられ、初めて、この世界医師会と世界獣医学協会の合同大会がスペインのマドリッドで開催されました。この大会において、約40カ国、300名程度の有志の先生方もその中にご出席でしたが、日本医師会の横倉会長と私とで講演をいたしまして、わが国に対する関心の高さと期待感をひしひしと感じたところです。これからも日本獣医師会は日本医師会とともにわれわれ

の役割を世界に向けて発信し、そしてまた、務めを果たしていかなければならないと考えております。

本日は北村直人日本獣医師政治連盟委員長にご出席をいただいておりますが、まだまだ政治的に解決を図らなければならぬ大きな課題ばかりであります。これまで北村委員長はじめ政治連盟の役員の方々の皆さま方には、毎日のように官邸、農林水産省、大学等々との交渉を重ねてきていただいております。本当に頭の下がる思いであり、日本獣医師会としてこんなに心強いことはございません。今後とも、日本獣医師会と日本獣医師政治連盟は車の両輪として頑張っていきたいと思っております。

本日は大変お忙しい中、皆さま方にお集まりいただきました。われわれが一番期待しておりますのは、事務局の皆さま方により、会員の方々からの情報を伝達いただき、そしてまたわれわれが考えていることを会員の方々に伝えていただく、これが最も肝要なことだと思っております。そういった意味では、私にとりましてきわめて大事な会議でございます。われわれの意のあるところを十二分にお汲み取りいただきまして、熱心な討議を重ねていただき、今後とも日本獣医師会を支えていただきますよう心からお願いを申し上げます。会長の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく願います。

【議 事】

1 日本獣医師会説明事項

- (1) 境専務理事から挨拶及び平成27年度事業の概況について説明が行われた。
- (2) 事務局担当者から、順次、以下の説明が行われた。
 - ①平成27年度事業計画
 - ②獣医学術学会事業関係として、平成27年度獣医学術学会年次大会及び獣医学術地区学会の開催、地区学会への学会正副会長の出席予定、日本獣医師会学会学術誌への投稿の推進、地区学会長賞選考演題数について
 - ③獣医学術講習会研修会事業として、獣医療提供体制整備推進総合対策事業に係る研修・講習会、産業動物臨床・小動物臨床・獣医公衆衛生の講習会について
 - ④日本獣医師会獣医師生涯研修事業として、生涯研修新システムの稼働とその内容について
 - ⑤獣医事対策等普及啓発事業として、2015動物感謝デー in JAPANの開催の概要、日本獣医師会動物愛護週間関連行事褒賞事業について
 - ⑥動物福祉適正管理施策支援事業として、動物適正管理個体識別登録等普及推進事業について
 - ⑦東日本大震災義援金に係わる対応として、緊急災害

時動物救護活動強化に係るゲート型リーダーの寄贈について

⑧部会委員会等運営事業として、特別委員会と部会委員会の開催状況について

⑨日本獣医師会獣医師福祉共済事業として、生命共済保険事業、獣医師賠償共済事業についての概要

(3) 地方獣医師会側から、公務員の処遇改善に関して、次の要望が行われた。

県の人事委員会では国の人事院勧告の内容を確認しているため、日本獣医師会が人事院に対して処遇改善に関する交渉を行うのであれば、ぜひ、勧告の前に対応していただきたい。

2 決議要望事項・照会事項

事務局から、平成26年度に実施された地区獣医師大会における決議要望事項等の内容とその対応、及び地方獣医師会及び日本獣医師会照会事項について説明が行われ、東京都獣医師会から紹介のあった狂犬病予防注射の件に関し、狂犬病予防注射、注射済み票等の取り扱いについて意見交換が行われた。

3 日本獣医師政治連盟活動報告

北村直人日本獣医師政治連盟委員長から以下の報告が行われた。

地方獣医師政治連盟の皆さま方には大変お世話になっております。皆さま方があって初めて日本獣医師政治連盟が成り立つということでございますので、引き続き皆さま方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日は2点だけ、皆さま方にお願いがございます。

一点は、来年7月の全国区で日本医師会が、自由民主党の公認候補として擁立する候補者について獣医師会のご推薦をいただきたいということで、日本医師連盟から正式に日本獣医師政治連盟に対して推薦の依頼がございました。日本獣医師政治連盟といたしましては、一にも二にも地方獣医師政治連盟のお決めになることが第一です。日本獣医師政治連盟からは参考資料として、たとえば自由民主党から、あるいは他の党からこういう候補の依頼がきておりますとお伝えし、そのことについてそれぞれの地方獣医師政治連盟でお考えの上お決めいただくことが本筋です。そのようなことから言いますと、来年の参議院選挙につきましては、都道府県の候補者はそれぞれの地方獣医師政治連盟でよく検討していただいて日本獣医師政治連盟に推薦依頼をしていただきたいと思っております。全国区につきましては、今、皆さまのお手元にございますとおり情報を提供いたしまして、その上でそれぞれの地方獣医師政治連盟に最終的にご決定いただきますが、先ほど来、藏内会長のお話にあったとおり、日本医師会と日本獣医師会は非常に連携を密にしております

ので、日本医師連盟から日本獣医師政治連盟に候補者の推薦依頼があったことを重く受け止めており、今後、日本獣医師政治連盟としてどのように対応するかということをお手元に配布したかと申しますと、現在は23の地方獣医師会が地方医師会と協定書を締結しておりますが、他の地域においてはなかなかまだ進んでいないところがありますので、本件を一つの材料としていただき、地方医師会からそれぞれの地方獣医師会に推薦の依頼があった際には、一緒に来年の選挙に対応し、それが一つ大きなきっかけとなり医師会との連携が進むのではないかと考えておりますので、ご理解いただきたいと思うところであります。また、場合によっては2人を推薦せざるを得ないのではないかと考えております。つまり、5年前に日本獣医師政治連盟としてお願いをした現職の先生もおられます。そういう場合には、仮に2人ということになると西の方と東の方とで分けていただいたり、あるいは全国的に2人ご推薦いただくなど、おのおの地方獣医師政治連盟においてそれぞれのご判断で進めていただけるよう情報は提供したいと思っております。

それからもう一点、日本獣医師政治連盟として、今まで新しい獣医師養成大学・学部については反対をしましてまいりましたが、本件について最終的に先日閣議決定がなされました。骨太方針あるいは成長戦略という言葉がニュース等々で皆さまも目にされたと思います。その中に、本当に小さく獣医師養成大学・学部の新設に関する検討という項目が出てまいります。その部分を読ませていただきますと、「現在の提案主体による既存の獣医師養成ではない構想が具体化し、ライフサイエンスなどの獣医師が新たに対応すべき分野における需要が明確になり、かつ、既存の大学、学部では対応が困難な場合には近年の獣医師の需要の動向も考慮しつつ、全国的見地から本年度内に検討を行う」という文言が出てまいります。3つの条件が付いています。つまり、新しい大学を作りたいところが既存の獣医師養成機関でないという構想が具体化すること、次に、獣医師が新たに対応すべき分野の需要の要請があるということが2つ目、かつ、16獣医学系大学においてそれに対応できない場合ということが3つ目の条件となりますが、この獣医師養成の大学・学部の新設の可能性はこの3つの条件によりほとんどゼロです。16獣医学系大学で対応できない獣医師はいない訳ですから、既存の獣医学系大学でこれらができるということは当然です。石破担当大臣と相談をした結果、最終的に、「既存の大学・学部で対応が困難な場合」という文言を入れていただきました。ただし、今後もこの問題は尾を引いてくると思います。つまり、日本の最高権力者である内閣総理大臣が作れと言えできてしま

う仕組みになっておりますので、こういう文言を無視して作ることは可能です。内閣がもしこれを行うのであれば私たちは現在の内閣に対して敵に回らざるを得ないのですが、獣医師会としては抵抗勢力にはなりたくない、抵抗勢力としてマスメディア等々で取り上げられ、獣医師会は抵抗勢力である、訳の分からないことを言っている団体だということになりますと、世論の風当たりは強いものになります。日本獣医師政治連盟といたしましては、先ほど申し上げました3つの条件は、現存の16獣医学系大学においてきちんとした教育をすることが重要であり、1にも2にもまず16獣医学系大学が今回の答申に対するコメントをするべきであるということがわれわれの見解です。そして、16大学から日本獣医師会、日本獣医師政治連盟に対する協力要請があって初めて、この日本獣医師会、日本獣医師政治連盟による具体的な検討・対応を行うことが本筋であると考えております。

最終的には、今回の獣医師養成大学・学部の新設については、どこを読んでもこれを覆すような状況は一つも

見当たらない、つまり、新しい獣医学系大学・学部の設置はできないということが今回の骨太方針、成長戦略の文言に書いてあると考えております。これをクリアする新たな獣医師の資格を作るのであれば別だと思われませんが、現状では設置できないということが日本獣医師政治連盟としての見解です。繰り返しになりますが、日本の最高責任者がもし失言するようなことがあれば、できないことはないということはお腹にすえておかなければならないということだけ、ご報告をさせていただきます。少々長くなりましたが失礼いたします。

4 研修会「マイナンバー制度対応」

(一社)日本個人情報管理協会の内山和久専務理事を講師として、「マイナンバー制度対応」に関する研修会を行い、①マイナンバー制度の概要、②企業・団体における対応内容、③保管方法、④注意すべき点等について、具体的な対応内容等を交えて説明が行われた。